



八高支スクールライフ

青森県立八戸高等支援学校
発行：令和5年6月23日
第3号

きみの「気持ち」を覚えてくれないか

子どもの頃から文章を書くのが苦手です。

学校で「作文」の課題が出されると、脂汗を流し膨大な時間をかけたのに「〇時〇分〇〇に行った。〇〇をした。」という淡々とした「報告書」ができちゃいます。「感じたことを書くのだ。」と指導されても、当時の私にとっては、「気持ち」は文字にできないものでした。

書くだけではなく、小説は短いものでも最後まで読めた試しがありませんし、漢字も英単語のスペルも全く覚えられませんでした。今では、私自身の認知特性が非言語思考優位であることが理解できますが、当時は大いに悩んだものです。

そんな私が今こうやって、恥ずかしながらもなんとか人前に出せる文書を書くことができるのは、テクノロジーの進歩、とりわけ日本語ワードプロセッサ（ワープロ）の発明に依るところが大きいです。ワープロ（今はパソコンですね）は、思考を妨げる要素が圧倒的に少なく、私は、鉛筆で文字を書き、辞書で漢字を調べ、消しゴムで書き直していた頃には、「気持ち」がどこかに消し飛んでしまっていたことに気づくのです。

昨今、生成AIが注目を集めています。

医学の進歩が感覚機能障害者の社会参加を力強く支えたように、AIの進歩は知的障害者のそれを劇的に広げる可能性を秘めています。シンギュラリティの到来は彼らの「気持ち」をどのように表現してくれるのでしょうか。

障害の概念は、その社会の制度、経済、価値観によって変わります。変化の激しい時代においては、知能の概念すら変わるのかもしれませんが、そこに残る人間の本質とは何か、ということをぼんやりと考えつつ、来たるべき世界に期待をもって今日を過ごしたいと思っています。（外崎教頭）

Café 8 5 4 を～毎月、笑顔で営業します～

Café 8 5 4 のスローガンは「お客様にとって居心地のよいCaféを目指して」です。そのために、「笑顔で挨拶」「自分から進んで動く」「仕事に誇りと責任をもつ」を意識して取り組んでいます。

今年度は月1回の一般開放の「Café 8 5 4」に加え、校内の生徒や職員を対象としたカフェもオープンし、接客力を高めています。接客の回数やアドバイスをもらう機会が増え、やりがいをもって奮闘しています。

これまでのパンにアレンジを加えた八高支ならではの新作を現在考え中。よいアイデアがありましたら教えていただけると嬉しいです。（増尾）



普通科校内実習

〔5月22日～6月2日〕

普通科1学年は、2週間連続で作業を中心とした校内実習を実施しました。後半は疲れた様子が見られましたが、将来働くことを意識し、クラスの友達や先輩と協力しながらやり切りました。

今回の経験を自分の自信として、これからの学習や産業現場等における実習に生かし、進路実現に向けて頑張りたいと思います。（山内）



産業現場等における実習〔5月～6月〕

普通科2学年では5月22日から順次、産業現場等における実習に取り組んできました。学級で事前学習を重ね、自分の課題を目標にして臨みました。

それぞれの実習場所では、今できる自分の力を出し切って活動することができました。初めての仕事、初めての相手とのコミュニケーション、校内での作業学習より長い時間の労働等、それぞれの生徒が大きな壁を感じながらも全力で取り組んでいました。（外谷）



オープンキャンパス（中学生対象）

〔5月29日～6月2日〕

学校見学会を5日間にわたって行いました。中学生127名、保護者170名、関係職員7名、計304名が参加しました。

授業見学では、各作業班の代表生徒が作業内容やその特徴を、自信たっぷりに説明してくれました。

この見学をとおして、中学生の皆さんが、学校入学後のイメージをもち、意欲的に学習に向かうことを期待しています。（三浦と）

